



道徳通信

第 2 号

令和3年 10月15日 発行

発行人：群馬県立吉井高等学校
道徳教育推進委員会

道徳及び生徒指導の職員研修

■ 情熱を燃やして、生徒と向き合う

2学期の中間考査が行われた10月5日(火)午後、吉井高校多目的室にて本校教職員を対象に道徳及び生徒指導に関する研修が行われました。講師は、吉井高校に11年間勤務して剣道部を指導し、男女団体を関東大会出場へ、男子個人をインターハイ出場へ導いた、渋川工業高校の元校長先生で**剣道範士八段の谷勝彦先生**です。

「**情熱を燃やして、生徒と向き合う～指導のきっかけ作りと、在り方～**」と題して、教師として、管理職として、さらに剣道実践者として、様々な観点からお話をいただきました。また、谷先生が吉井高校に勤務していた時は総合学科開設に向けて準備をしていた時期でした。当時の先生方の**吉井高校の総合学科開設に向けた意気込みや思い、生徒に**選択や判断する事を通して自己決定能力を高めさせたい****という思いを紹介いただきました。

■ 自分事として考える

谷先生の情熱の源は何だろう？どんな気持ちで生徒と向き

講師プロフィール 谷勝彦 先生 剣道範士八段

高崎商業高校・吉井高校・前橋西高校 勤務

前橋工業高校・藤岡中央高校教頭

渋川工業高校校長

現在 慶應義塾大学体育会嘱託職員 剣道部 師範



あつてきたのだろうか？そして、谷先生自身の在り方生き方は？そんな疑問を持ちながら谷先生のお話をうかがいました。講演が終わり、では自分にとって情熱とは？生徒と向き合う気持ちは？自分自身の在り方生き方は？先生方一人一人が**自分事として**とらえ、今後の教育活動への思いを新たにしました。

■ 他者の視点を入れて考える

ところで、先生方はどんな言葉に心を動かされたのでしょうか。一番多かったのは、「**生き方を教えるのではなく、(教師の)生き方で教える**」でした。また、「**心に火をつける教師**」「**できないことを教えるより、できることを教えよう**」なども挙げられていました。先生方も様々な刺激を受けました。生徒のみなさんも、学校生活の中で様々なヒントに気づき、考え、行動して行ってほしいと願っています。

「めあて」をもって取り組もう

■ 行事予定

- 10月17日(日) 中学生向けオープンスクール→**愛校心、礼儀**
- 10月20日(水) 地域の企業の抱える課題を解決する授業の中間プレゼン(2年次)
→**地域との関わり、社会参画**
- 10月22日(金) 薬物乱用防止教室(3年次)→**遵法精神、節度**
- 10月25日(月) 体育祭→**個性の伸長、友情、信頼**
- 11月 1日(月) 創立記念式典→**愛校心**
- 11月15日(月) 第3回マナーアップ運動→**礼儀、遵法精神、公德心**
- 11月16日(火)～18日(木) インターンシップ(1年次)
→**勤労の意義、地域との関わり**

緊急事態宣言も解除され、様々な活動が再び活発に行われます。

忙しく行事が行われるように感じられるかもしれませんが、その中でも**「めあて」をもって**行事に取り組んでみましょう。一層充実したもの、実り多きものにしていきましょう。これから行われる行事の中で**意識**してもらいたい事を左に紹介しました。



吉井高校の道徳教育の重点目標

- ・ **地域社会の一員としての自覚と公共心を涵養しつつ、地域社会の発展に努める態度を育成する**
- ・ **集団や社会の一員としてよりよい人間関係を構築しようとする態度を育成する**